令和6年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立　門司海青　小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和6年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

(1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

(2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

［8種目］ 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

※ 本校の5年生は単学級ですので、個人が特定されることがないよう、公表の方法について配慮しています。

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	19.19	33.79	40.66	46.90	9.50	150.42	20.75	52.53
本市	15.98	19.39	34.42	40.27	49.36	9.54	150.13	21.81	53.10

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	15.77	18.16	38.19	38.70	36.59	9.77	143.13	13.15	53.92
本市	15.88	18.39	38.51	38.13	38.67	9.79	142.58	13.44	54.32

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
運動やスポーツへ意欲的であり、体育の授業以外の運動やスポーツの時間について、1週間の総運動時間が男女ともに全国平均を上回っている。また、授業のめあてや学習のねらいを意識しながら取り組み、「できる」や「わかる」につながることができている。しかし、振り返りについては、画一化している傾向がある。自分で設定した目標の到達度について、可視化や共有化しながら振り返りをすることで、課題を焦点化していくことが課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科（授業）に関する取組（全校で・学年で・学級で）

自ら主体的に探究しながら、体を動かすことを目標に、体育の学習や運動会・縄跳び大会などの学校行事では、成果が自信につながる場面を設定した。課題の克服に向けて、1単位時間内の運動量の確保を十分に行い、ICTを活用して、体の動きを認識できるようにすることで、体力や技量の向上を実感できるようになった。これからも、この取組を継続して、生涯スポーツの基盤となり得る、自ら挑戦して、持続しようという意欲的な態度を育てる。

② 運動習慣等に関する取組（1校1取組）

異学年交流による縄跳び大会では、体育委員会が縄跳びの跳び方や練習方法の動画を作成したり、休み時間に縄跳びを計画的に練習を行ったりした。運動習慣の定着として、練習した成果を持続、発展させていくために、体育の学習では、縄跳びを計画的に行うとともに、休み時間にも縄跳びができるように、貸し出し用を準備している。記録カードは、時系列で成果を確認できるように可視化して、意欲的に取り組む態度につなげる。